

令和2年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	41	学校名	県立潮来高等学校				課程	全日制			学校長名	海老澤 浩一						
教頭名	小澤 茂幸										事務室長名	佐藤 尚寿						
教職員数	教諭	29	養護教諭	1	養護助教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	6	実習教諭	1	事務職員	2	技術職員等	3	計	53
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		50	28	42	23	47	42			139	93		7				
	地域ビジネス科		15	7	7	8					22	15		2				
	商業科						11	7			11	7		1				
人間科学科		11	25	5	24	5	26			21	75	3						

2 目指す学校像

人間性豊かな自立した生徒の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立した人生を歩める人間を育成する～

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	アンケートによると、意欲的に学習に取り組んでいる生徒は6割程度で、家庭学習をまったくしない生徒が約5割、計画的に学習する習慣が定着していない。	学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図るため、より一層の指導の工夫・改善に努める。
進路指導	卒業生の進路決定率は98%と高いが、100%をめざしたい。生徒の進路意識の高揚とともに保護者の協力・支援も必要である。	LHR, 総合学習, 個別面談, 就業体験, 進路講話等を通して、生徒の進路意識の一層の向上を図る。
生徒指導	丁寧に指導の段階を踏むことで、概ね落ち着いた生活状況にあるが、やや軽率な言動を取る生徒もおり、規範意識の欠如がみられる。	共通理解のもと、生徒観察や声掛けを徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざす。
特別活動	全国で活躍する部がある一方、全体の部活動加入率は約4割にとどまっている。また学校行事に取り組む自主性に乏しい生徒もいる。	部活動や学校行事への積極的参加を促し、キャリア・パスポートを活用して生徒個々の人間的成長に繋げる。
働き方改革	学級減にともない職員数も減少し、1人当たりの業務負担が増えた。そのため特に経験の浅い教員が苦慮し、勤務時間超過の傾向にある。	業務を精選するとともに、ベテラン教員と若手教員とでチームを形成し、スキルを継承していく。

別紙様式1（高）

4 中期的目標

1	基礎学力の定着 ～学習習慣を確立させる～
2	社会を意識したキャリア教育 ～ルールやマナーを遵守し品格ある態度を育てる～
3	豊かな人間性と社会性の涵養 ～多様な学校行事や部活動を通して人としての成長を促す～
4	学科や地域の特色を生かした教育 ～学科や地域の特色に応じた活躍の場を創出する～
5	地域や保護者との連携 ～地域に愛され保護者に信頼される学校をめざす～
6	働き方改革 ～業務の効率化で生まれる心身の余裕を生徒の指導に生かす～

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の定着	① 「主体的・対話的で深い学び」の指導を研究し、授業改善を図り「わかる授業」の実践に努める。 ② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「確かな学力」を育む。 ③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自発的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ④ 基礎・基本の徹底と反復を図り、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る。
2 社会を意識したキャリア教育の充実	① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。 ② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。 ③ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。
3 豊かな人間性の育成	① 生徒とのコミュニケーションを大切にし、心情理解を図り、信頼関係を構築するとともに、問題行動の早期発見・早期解決に努める。 ② 「道徳」「道徳プラス」の時間を要として学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養う。 ③ 登校指導等を通し、生徒との触れ合いのなかで、挨拶の励行や身だしなみの指導を図る。 ④ 学校行事や部活動の充実を図り、忍耐力や思いやり、協調性などを育む。
4 学科や地域の特色を活かした教育	① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。 ② 地域の行事やボランティアなどに関わる機会を創り出す。 ③ 検定試験や資格取得を推奨し、生徒の活躍の場を創り出す。
5 信頼される学校づくりの推進	① 保護者や地域との連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。 ② 授業公開や学校新聞・HPを活用し、教育活動の様子を社会に向けて積極的に発信する。
6 働き方改革	① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。 ② 働き方改革で生み出された心身の余裕を生徒の指導に生かしていく。